

令和4年度

第1回新城市総合教育会議  
会議録

令和4年9月 第1回新城市総合教育会議 会議録

1 日 時 9月1日(木) 午後1時30分から午後2時39分まで

2 場 所 新城市役所 本庁舎 4階 4-2、4-3会議室

3 出席者

下江洋行市長 安形 博教育長 青山芳子教育長職務代理 安形茂樹委員 夏目みゆき委員  
原田真弓委員 夏目安勝委員 鈴木志保委員

4 同席した職員

鈴木教育部長 原田教育総務課長 中嶋学校教育課長

5 書 記

下山教育総務課庶務係長

6 議事日程

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 少人数学級の実現について
  - (2) 教育環境の充実について
- 4 その他

閉 会

## 1 開会

### ○職務代理者

皆様には本日、お忙しい中、ご出席を賜り誠にありがとうございます。定刻になりましたので、令和4年度第1回新城市総合教育会議を開催させていただきます。

新城市総合教育会議運営細則の第2条第2項に従いまして、教育長職務代理者が司会を行うことになっておりますので、私が本日の会議の進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、会議の開会に当たりまして、下江市長より開会の挨拶を申し上げます。

市長、お願いいたします。

## 2 あいさつ

### ○市長

皆さん、こんにちは。

本日は、令和4年度第1回の総合教育会議を開催していただきまして、誠にありがとうございます。天気がちよっとはっきりしないですけれども、そんな中また、今日から新学期が始まりまして、生徒さんが皆さん元気で登校してくれればいいなと思いつつ、今日私も庁舎に来るときにそんな思いを持ってまいりました。市内では、夏休みの後半に交通事故が発生しておりまして、これから新学期が始まってより安全な地域づくりのために交通安全対策もしっかりと取っていかねばいけないなと思っているところでもあります。また、コロナウイルスの感染症の感染状況が増加していく局面というよりは、高止まりしているというようなそんな状況なのかなと思っておりますけれども、新学期が始まりまして、なお感染は減っていくというよりは、まだしばらくこの状況が続くのではないかなと思っております。そんな中で教育長さんはじめ、学校の先生、皆さんに大変ご苦勞をおかけするわけですけれども、対策をしっかりとして、また、必要に応じて行政も学校現場の状況をしっかりと声を届けていただきまして、行政としてできる対応はしっかりとやっていきたいというように思っております。

今日は、協議事項2件ありますけれども、忌憚のないご意見を承りますのでどうぞよろしくお願い致します。

### ○職務代理者

ありがとうございました。

続きまして、教育委員会を代表して教育長から挨拶をお願いします。

### ○教育長

皆さん、こんにちは。

本日は、総合教育会議のために市長さんそして、教育委員の皆様にお集まりいただき誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

今日、2学期始業式ということで、先ほど報告が入りまして、コロナ関係で児童生徒、約140名が学校を休みました。書類上は、出席停止となるわけですけれども、コロナに感染し陽性になった子、そして濃厚接触者である子、あるいは感染を予防するために、あるいは感染拡大を防ぐために、そういうあらゆる観点からコロナ関係で休まれた児童生徒が約140名いると、そんな状況でスタートを切りました。感染が落ち着いて、子どもたちが学べる、きちんと本当に学校で学べる、そういう時間を

これから生み出していけるように努力してまいりたいと思います。

本日、総合教育会議ということで、この主旨は明日の新城の教育がより良いものになるようにということで、市長様、そして教育委員の皆様、情報共有をしていただいて、教育が本当によりよくなるようにという願いを込めて開かれるものだと思っております。年3回の貴重な会議ということで、率直なご意見をいただきながら進めさせていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

#### ○職務代理者

ありがとうございました。

それでは、早速議事の進行に移りたいと思います。

本日の協議事項ですが、（１）少人数学級の実現について。（２）教育関係の充実についての２点でございます。

それでは最初に、少人数学級の実現について、これにつきまして原田委員と夏目委員から内容の説明をお願いしたいと思います。

原田委員からお願いいたします。

#### ○委員

この場で失礼いたします。

本日、始業式が行われたということで、我が家の中学校3年生も東郷中学校区なんですけど、初めて小中連携の引き渡し訓練があったということで、中学生になったのに迎えに行ってもいりませんでした。スムーズに新しくなった体育館で子どもたちが保護者の皆さんが来るのをいい子でクラスごとでまっていたので、初めての試みで小中連携ということでいいなと思いました。

市長さんには、少人数学級をこの春から実現していただいたことへのお礼とそれから、いろいろなところから届いて声というのをお伝えしたくて、まず、どこの学校も東郷中学校、我が家の3男のところも、まさに少人数学級にさせていただいて、2クラスから3クラスになった学校なんですけど、そのほかの中学校さんのお話などもまとめますと、皆さんおっしゃっていることがほとんど同じで、一番大きく言われているのが、デメリットは一つもありませんというお話でした。

メリットなんですけど、やっぱりいろいろ考えられていたとおり、先生たちは一人一人の子どもたちにしっかりと目が行き届くので、子どもたちの様子をしっかりと見てあげられることができるようになったと。先生たちの生活、授業の準備などでも余裕が随分出てきて、その分、ああ、ちょっとこの子なんか今、悩んでいるのかなとか、ちょっとこの子今、情緒不安定なのかなという、中学生という一番気持的に不安定な年齢の子たちに対して、大人である先生、教員の先生たちの目がしっかりと行き届くようになって、クラス内でのめごとが非常に減ったという話が一番聞いているところです。

そのほかにも、学校側の先生方の意見としては、生徒一人一人の意見をしっかりと聞いてあげられるので、授業の発言、一人一人を指してあげられる。発言の時間を与えてあげられる時間が増えたですとか、個別に意見を聞いてあげられる時間がすごく増えた。授業のクオリティも準備にかけられる時間というのが随分増えたので、すごく余裕ができたということが一番大きいかなと思います。

続いては、保護者の皆さんの意見ですけれども、やはり保護者の皆さんはお子さんの学力を一番心配されていて、実際に、じゃあ学力どうですかというと、あまり変わらないなという子もいたんですけども、それでも先生に質問してきたりとか、わからないことを今日教えてもらったよという子ど

もたちの勉強に対する余裕というのが随分出てきた。このままだと学習塾に行かせなければいけないなど思っていた家庭も、今の感じだったら学校で先生にしっかり聞いて来られるからいいじゃないかということで、学習塾に行くのをやめたというご家庭もあるそうです。その分、自宅での子どもとのふれあいに使う、増やそうという家庭もあったそうです。

それから一番大事な子どもたちの意見ですが、これもいろいろな子どもたちに直接話を聞いたのですが、コロナ禍であって40人学級というのは非常に教室が狭いと、特に中学生だとそうですよね。給食の時間などは、感染が怖くて学校に行きたくないと言っている子どもたちも当時いた中で、だいぶ教室の中の空間に余裕ができたことによって、学校に行くのが楽しくなった、心配なく学校に行けるようになりましたというのが一番この中では大きかったのかなというところです。

あと、これも一つ、子どもたちならではの視点だなと思ったのが、コロナ禍でみんなマスクをしている。3年間、今の3年生の子たちは1年生で中学に入ったときからずっとマスク生活ですから、同級生の顔がよく分からない。特に千郷中学校の子は小学校からそのまま上がっているんですが、その他の中学校というのはほかの小学校から集まってきて一つの中学校なので、顔もよく知らない子が多いという中で、やはり少人数学級になったことによって、同級生の顔が体育の授業や給食の時間になって見られて、あの子ってこういう顔をしていたんだなというのが分かったよというのが、結構何人かの子が教えてくれて、ああそうだったんだなと思いました。

後はやはり、勉強の面は先生にたくさんさしてもらえるようになったので、授業中に挙手をするとよく発言ができるので、これは成績アップにつながるのかなということで、その辺りは本人たちが喜んでいたところでした。

そして、先生方のことですけれども、東郷中学校も新城中学校もそうですけれども、少人数学級になって、クラスが増えたことによって、担任の先生陣が若いものですから、どこの学校も、結構クラス同士で僕のクラスがいいクラスにしてやるんだとという、先生同士のライバル心というのが体育祭ですとか、学校行事においても授業においても切磋琢磨できる、すごくいい機会になっているということで、デメリットに関しては何一つありません。中学生に関しては本当に少人数学級にさせていただいて、心の面でゆとりが出たと。

最後にですが、子どもたちが最近先生イライラしてないっていう意見が。忙しい時期などは、先生がイライラしていたそうですけど、何か先生最近ゆったりしているというか、機嫌がいいというか、2年生から引き続き担任をしてくれている先生を見ていると、先生自身も心にゆとりが出ている、子どもたちも見ていてとても感じているという話を聞いております。本当に少人数学級にさせていただいて中学校は大分充実をしているようなので、ありがとうございました。

まず、ご報告とお礼をさせていただきました。

#### ○職務代理者

ただいまは原田委員からのお話でしたけれども、保護者としての立場からの現状の話とか、子どもたちの意見等の話がありまして、非常にわかりやすく言っていただきました。ありがとうございました。

では、続きまして夏目委員、お願いいたします。

#### ○委員

それでは、お願いいたします。

私も資料の中にありますプリントにそって説明させていただきたいと思いますので、ご覧ください。今まで、2、3年の間、この総合教育会議にも何度も少人数学級の実現に向けて提案をさせていただき、検討を進めていただきましたけれど、今回35人学級が実現したということで、今、本当に保護者の方の貴重な現場の意見というものを聞かせていただきました。本当にありがたかったと思います。本当にありがとうございました。

そして、この2番目のところに書かれていることは今、原田委員が述べてくださったことがまとめであるようなことです。この事例というのは、市内中学校の実施された意見ですので、その学校から聞こえてきている言葉をここに述べさせていただきました。本当に良い面ばかりだと思います。

それでは、それにつきまして、中学でこんなに高評価をいただいたというこの35人学級、ぜひとも市内の小学校でも実現していただきたいということで、どのような効果があるかということが3番目のところに書かせていただいたことです。これも今、高評価をいただいたという中学のこととほぼほぼ同じようなことが書かれています。一番この中でも教師のところに書かれている上から4番目、不登校、発達障害傾向の児童生徒にもよりきめ細かな指導ができるというところなどは、普通学級に戻ったときに36人以上のところに戻るよりも、少ない人数のところでのこの子はどのような子なのか、一緒にやるにはどうしたらやれるだろうかということをお互いに学び合うということができるといふ大きな側面もあると思いますので、こういう面も小学校での少人数学級実現に前向きに取り組んでいただけたらと思います。

そして、最後の4番目のところは今、皆さんの手元にあります資料のところにつけてあります少人数学級3035といひましようか、このA4の横向きになった資料のところから抜粋させていただいて、これを見ますと、来年度、令和5年からはどのような学校がどれだけ必要とされているかということが書かれております。そして、必要とされる、単に学級数を増やすということだけを考えてとき、小学校では5名、中学校では3名の方が必要になっていくので、これだけのことが必要かと思うけれど、ぜひとも実現をしていただきたいというご提案ということでお願いいたします。

私からは、現状と今後に中学校、小学校と続いてやっていただけるといふことをお願いして、提案とさせていただきます。

お願いいたします。以上です。

○職務代理者

夏目委員は、教育委員としても長い経験もございませし、教員としての経験もございませので、非常に貴重なご意見だったと思います。

○職務代理者

それでは、原田委員、夏目委員の説明、及びご意見等ございましたけれども、これにつきまして、他の委員の皆様、意見や質問等ございましたらお願いいたします。

○委員

お願いします。

ただいま各教育委員から説明がありまして、先生方の評価、子どもの評価、保護者の評価ととてもいい評価のお話を伺いました。

私は、昔教員をやっております、時代的には随分ずれているんですけども、随分昔から少人数学級については、いろいろなところで話題にしてみました。

私は、高等学校の専門学科の教員をしておりましたので、子どもたち、時代的にやんちゃな子がいる時代でした。教室に行って一番大事なことは、やはり子どもの顔を見ることです。いろいろな事情があって、高等学校の専門学科は40人学級ですけれども、35人ぐらいのクラスだったのです。そうすると前を向いていて全員が視野に入るんです。右を向いてはい、左を向いてはい、という子どもの把握ではなくて、教室に入って前を向くと全員が見えるんです。これ、とてもいいな。先生方からは、悪いクラスでしたけれども、指導がしやすいというお話がありました。子どもがよく見えるというのは本当に教員にとってはすばらしいことと思うんです。蛇足ですけど、そんなことを感想として思いましたので。

○職務代理者

ありがとうございました。ほかにはよろしいでしょうか。

お願いします。

○委員

下江市長さんが今年度の重点施策として新聞発表された時、国に先駆けたという言葉が使われていたんですね。中学校の35人学級を国に先駆けて、公約をすばやく実施していただいたことに深く感謝申し上げます。新城が国に先駆けた自慢できることとしては、あまり予算の必要がない共育の理念と実践、それから教育憲章だと思っていましたが、今回予算を伴っての中学校の少人数学級実現、これは画期的なことだと思います。本当にありがたいことだと思います。

小学校の30人学級につきましても、先ほど話がありましたようにデメリットはほとんどない、高い教育効果が期待できますので、実現できればと思います。

小学校の30人学級についてネットで調べた情報ですが、鳥取県が段階的に本年度から30人学級に取り組むということです。県内では犬山市が平成16年から30人学級を全学年で実施しております。それから京都市が30人程度ということで実施していますが、全国的には非常に少ない実施状況です。新城市の特色として、小規模校が多いことを活かして、小中学校合わせて少人数学級にするというのは、全国に誇れる教育施策になるのではないかと考えています。

日本は、世界的には学級編成の定数が非常に多い国だということです。オーストラリアの定数は18人、スウェーデンが22人、ドイツが28人ということで、多くの国が30人以下の編成基準になっています。OECD全体の中では、平均で1クラス21.1人となっています。日本の場合は、27.2人だそうなので、日本は少人数学級では遅れている国だと、そんな状況があるようです。

そんな中で、新城市が少人数学級でもう一步前進できるのであれば、学校運営上大きな教育効果が期待できますので、ぜひ目指すべきだと思っています。

以上です。

○職務代理者

ありがとうございました。

ほかによろしいでしょうか。

お願いします。

○委員

4月から教育委員会に選任いただいて5か月がたつわけですが、実際まだ1年生の子どもと、これから年中の子ども、そんな手のかかる子を抱えながらどのように教育委員として、ただ保護者として

教育という柵の中にいるだけではなくて、実際構造づくりに関わるような仕事ということで、どんなことができるかなと思って着任した委員ですが、実際5か月たちまして、例えば1年生の子どもがお便りをもらってくるんですけど、保健日より、それからカウンセラーの先生の便り、当然、学年の先生の便り3通もらってきて、9月から楽しく学校生活が送れるようにということで、健康面、体づくりから努めてまいりますということで、1年生も頑張っていきたいと思いますなお便りをもらって、当然そんなものは、体づくり、健康面含めて親の仕事だなと私は思っていたのですが、そういった当たり前のことでさえ先生から言ってもらえるような、そういったルールというか文化が当たり前のようにある教育現場というのは改めてすてきななと思って、今日子どもの便りを本当につぶさに見て、しっかり見させていただく、そういった機会も今回委員になって、この環境が私を親としてこういう面を持たせてくれているんだなということで、改めてここに座れていることに感謝している気持ちでいっぱいです。

その上で、5か月間の中では委員の方も人生の先輩として、また先生方も多いですので、いろいろなことを研修させていただこうと思ひまして、発言をお伺いしたり、議事録を読ませていただいたりということで勉強していたんですが、一つ思うことがあります。今回のこの少人数学級の実現という点に関しまして、若干、生意気ながら違和感として思ったことが、教育長をキャプテンとして既に目的地も決まっていると、船の進め方も皆さんベテランですので、ラストスパートを迎えて漕がれている。私は、4月から仲間に入れてもらった身として、当然後から乗船した者ですので、下船するという選択肢もあるかもしれないですが、それは私の性格ではない。新しく目的地がそこにあって、乗船した船員として、どういうふうにするかと考えたときに新しく乗船した者として、今まで当たり前として言われたこと、つまり逆に言えば、言われなかった点や見られなかった点に焦点を持って行くというこの私の役割かなということも考えまして、思いました。実際、子どもは19人の東陽小学校小学校ですので、親としては皆さんの意見から従えばすごくいい環境で、細かく見ていただけていると思ひ増す。実際、クラスでもほかの学校にもして行ったら支援級とかに行かれるような子も見えますが、園からこんなふうにして、集団行動ができるように遊びに取り入れましたと連絡を小学校に入れていただいたり、実際、まわりのクラスメイトもそういうことを理解して、通級に通わせているお子さんも見えて、例えば違う小学校のお母さん、同級生と話したんですけど、すごく東陽小学校はいいと言われるんです。でも、片方で親としてはきっと自分がそういう環境だったのかということもあると思うんですけど、もう少し人数の多いところで、いろいろ経験としてもまれて、1位ということでも19人で1位ということではなくて、35人で1位と言った方が自信になるじゃないかなということも親として考えたりするものですから、今回のこの少人数学級に問題があったときに、じゃあ実際本当にこれが唯一、子どもが望む、子どもに向けての解決策の一つなのかということをおもひながらこの1か月半勉強してきました。

たどり着いた私なりの答えとしましては、やはりこれが最終段階の答えというものというよりは、学力アップにしても、例えば指導が必要なお子さんへの対応としても、先生の役割分担、仕事量ということに対しても、まず人数を少人数にすることで、環境をつくる、まず一つの必要条件、コンディションではないかなと思ひました。その上で、先生が余裕が生まれるということもありますし、お子さんも先生のケアでしっかり理解して自分で考えられるという舞台に立って、初めて自分でこういうことをやりたいなとか、友達の刺激や先生の刺激を受けられるんじゃないかなということで、人数が

少ない当たり前の東陽小学校も親からしたら当たり前だったんですが、こういうふうに人数を少人数にして、学級づくりをするのも一つの答えなんじゃないかなと思いました。

最後に、余談になってしまうんですけど、社会学を勉強してきた者として、人間は昔よく考える生き物ということで知恵を出していました。ホモコンピビウムという単語があります。それは何かというと、一緒に過ごす、一緒に進み考えるというコンセプトでして、それはやはり誰も取り残さない、誰も後ろに残さないという考えで、そうすると本格的で教育長の分野のインクルーシブという単語が出てくるんですが、教育現場において誰も取り残さないということを考える一つとしては、今回の少人数制というのは一つの手段じゃないかなと私なりに考えてここへ本日着席させていただきました。

すみません。長くなりました。

#### ○職務代理者

ありがとうございました。

鈴木委員はまだ子どもさんが小さいということで、そしてまた既に少人数の学校で、学級での体験も踏まえているから、貴重なご意見をありがとうございました。

ほかによろしかったでしょうか。

では、教育長からお願いします。

#### ○教育長

35、6年前に教員になって、その前に多分40人学級になったんですね。だから40人学級になって、40数年たっていると思います。それまでは45人学級だったと思います。ほぼほぼ40年間、全く定数、教職員定数が変わらなかった。国は、あらゆる施策を打ってきました。例えば、中学校は忙しいから進路指導加配、生徒指導大変だから生徒指導加配、チームティーチングをやるから、TT加配、少人数学級ということで少人数加配、地域との連携が必要だから地域連携加配、この加配というのは、時間をとにかく充てていく。その講師を雇うということでした。抜本的に教師の数を増やすということではなかった。たまたま昨年の市長のマニフェストの最初のところに小学校、中学校の少人数学級、実際に令和4年度から中学校での少人数学級が実現しました。40年願ってきたことがこの施策によって導入されたと、学校現場のメリットは今おっしゃられたとおりです。小学校でもさらにも思ったときに、先ほどの表を提示させていただいているんですが、今日午前中考えたことをもう1枚、紙を用意しました。学校教育課の課長として3年、新城市役所でお世話になりました。新城市として、お金をどのように使うか、税金をどのように使うか、いろいろなところで充実をさせたいといったときに、教育だけにお金をつぎ込むというわけにはいきません。そんな中で考えたのが、例えば来年度から小1に上がる子、その子たちから30人学級を実現する。そうすれば財政的な負担は軽減されるかな、教育部分だけの負担というのは軽減されると思って出したものです。そうすると、たまたま八名小、東郷西小、千郷小という3校に限られるわけですけども、新城市内の全ての学校において5年後には30人学級が実現されます。表の中で例えば千郷小、来年入ってくる子は88人、その右の表に行っていて再来年入ってくる子、令和6年に入ってくる子61人なんですね。この子たちは実は、特別支援学級、通常学級、全てひっくるめて61名ということで出現率から判断すると多分、59とか、58とかそういう数字になるので、もう30人学級が実現できているという見込で黒塗りにしてありません。そういうところがありますが、そういうことで試算して、最終的に矢印の右側、学級数がこれだけ増えます。小学校でいうと令和5年が1クラス、令和6年が2クラス、たまたま1、2、3、4、5と

なりますが、そういう感じで増えます。ただ、それ以降はこれより増えることはないです。5クラスがマックス。あと4とか3とかになると思います。そうすると必要な教職員の数は、4、5、4、5、7と、今3雇用していただいておりますので、極力近いような形で小中の少人数学級が実現できる、そんなことを思って急遽1枚作成させていただきました。また、ご検討いただければとてもありがたいと思っています。

以上です。

○職務代理者

ありがとうございました。

具体的な数も示していただきましたし、理想だけを言うだけでは市の予算もあるということですので、その辺りも非常にわかりやすかったと思います。

それでは、市長からの意見を伺いたいと思いますが、よろしく願いいたします。

○市長

まず、協議事項の一つ目の少人数学級の実現につきまして、現場の声、また今後における小学校の少人数学級のご提案等、様々発言をいただきまして、大変ありがたく思います。

まず、令和4年度の施策で新年度事業で、新規のマニフェストに基づく事業で、できたものの中で本当にこれはやるべきだな、やってよかったなと思えるものの一つが自分自身にとってもこの中学校の少人数学級の実現であります。令和5年度まで待ってくださいというような、そんな状況ではないということの前年度令和3年度に教育長さんともいろいろとお話しをする中で、これは令和4年度までにやらなければいけないという判断をさせていただきました。それは特に3年生の2学級が対象になるということで、高校受験がある。それで高校受験の在り方も時期も変わるというようなことで、当然3年生を受け持つ先生の負担というのを考ええると、これは令和4年度からやる必要があるということで、判断させていただきました。

そして今、もろもろ学校の保護者の方、生徒さん、先生からのお声を聞かせていただきまして、特にやはり先生と生徒さんの心が本当につながるような、そんな環境づくりに大きく役立っているのかなというように思いまして、それが先生の指導、それから生徒さんの学びの向上につながっていくという好循環になっていくことが期待できると思うので、そのことを期待して今後も中学校の少人数学級をですね、もちろんこれからも継続していく考えであります。

そして、小学校につきましては、この夏目みゆき委員の資料の4のところにあります、括弧の中に1学級35人学級にするためというところ、これは私の見方が違っている、30人にするためにはこの右側の下にあります括弧の中の右側の学級数になりますよという、こういう理解でいいわけですね。30人学級にするとしたら。

○教育長

小学校だと30人ですね。中学校は35人。

○委員

すみません、そうですね。両方が並べてしまったので、申し訳ありません。30人学級、小学校の場合は30人学級で。

○市長

小学校の少人数学級、今35人学級が小学校4年生までしか、県、国の施策によりまして実現されて

いるということですが、先ほど教育長さんからも段階的な導入というようなご提案もいただきました。それを踏まえて、来年度、令和5年度予算措置ができるものかどうかということも含めて検討させていただきたいというように思います。具体的な検討はこれからの宿題になりますので、ご理解いただきたいと思います。

また、新たに教育委員になられた鈴木さんには、大変深い考察をいただいたお話をされたのかなと承りました。まさに私も東陽小学校で、東陽小学校が今の新しい校舎になったときの第1回の卒業生で、最初に校舎に入れたのが私たちが小学校6年のときでして、そんなことで当時はもちろん、各学年2クラスありましたが、今1クラス、それも20人切っている、各学年それぞれの人数じゃないかなというように思うのですが、大体20人前後ということですね。その環境のお子さんが通う学校の現状を踏まえた保護者としての、また、教育に携わる勉強をしてきた身の立場からお話をいただきまして、私もまだまだいろいろ意見を聞かせていただく必要があるなと思いました。

小学校の少人数学級につきましては、30人ということにつきましてはちょっと課題として、受け止めさせていただきます。それで、私が心配しているということではないですが、新城の小学校、中学校の生徒さんの不登校の生徒さんが全国の平均よりも多いという現状があります。それで、特に令和3年度の傾向でしたかね、小学生が増えた、令和2年度でしたかね、小学生の不登校の子が増えたという、そんなデータを見まして、やはり家庭環境の大切さだと思います。

まずは、教育憲章にありますけれども、やはり良い習慣を身につけるための新城共育12の中での早寝、早起き、朝ごはんという、これに尽きるかなと思うんです。ですから、きちんと早起き、夜早く寝て、朝早く起きてご飯を食べるという習慣をしていけば、それぞれの家庭で子どもさんが学校に来てくれると思うんです。ですので、いろいろ不登校の原因を考えていくと、きりがありませんけれどもまずは規則正しい習慣をそれぞれの家庭で取っていただけるようにしていただくことが必要かなと思っております。そんな中から各学校で新学期に調べるんでしょうか、朝食調べ、それがどういう今状況なのかということも私も教えていただければ知りたいなと思っております。

傾向としては、特に3世代同居のおじいちゃん、おばあちゃんが一緒に住んでいる世帯の方は割と朝ごはんをしっかり食べられるような環境にあるというようなことも聞いたことがありますし、また、どうしても核家族、それからお父さん、お母さんが共働きですので、忙しいという側面もあります。中学生になれば、冷蔵庫を開ければパンと牛乳があれば自分でぱっとパンを焼いて牛乳をついで食べていくことができるんですけど、小学校の子はそうはいかないと思うものですから、そういう家庭の環境が大事かなと思ってまして、自治体によっては3世代同居の家族に対する補助というようなこと、特に愛知県では東浦町が始めました。これは、やはり子育ての環境の充実、よりよい子どもさんが幼少を育つ環境として、3世代の暮らしの方を行政も十分ではないけれどもサポートしようというそんな制度を取っている自治体もあります。これは、県内だけでなく県外にもあります。そんなことも少し今後、頭に入れて家庭支援、それから何よりも子どもさんのためになるような政策を考えていきたいなというように思っております。

少し話が反れましたけれども、規則正しい生活、もうこれに尽きると思いますので、そんなことを学校の先生も努力してくださっていると思いますけど、それが課題なのかな、これからしっかりやっつけていかなければいけないことかなと思ってます。

いずれにしても、少人数学級の実現がこれは一つの目的ではなく手段でありますので、よりよ

い中学校、小学校の児童さんの教育、それから学びの環境整備のための第一歩だと思っておりますので、引き続きこの状況の中で、また皆さんから改善の必要性とかまた新たなご提案があったら出していただければというように思いますので、よろしくをお願いします。

私からは以上です。

#### ○職務代理者

ありがとうございました。

ただいま市長からは、前向きなご意見を伺えたのかなと思っております。ありがとうございます。

早寝、早起き、朝ごはん。規則正しい生活というのは本当に基本中の基本ということですが、これは押し付けるのではなく、まず大人が手本を示さないといけないものですから、今自分に言い聞かせているところではあるんですけども、今、時代の流れでいろいろなものが値上がりしており、電気代などがもうすぐ2倍になるのではないかと、そういう心配もあるんですけど、国によっては、ドイツなど1日に1度しか温かい食事は食べないという国もあるようですので、例えば夜は火を使わない、電気を使わない食事にするとか、夜は早めに寝て、朝、おてんとう様が上がったときに早起きをしてしっかりごはんを食べましょと、何かそういうメッセージを送るのにもいい時代になってきているのかなと、今市長の話聞きまして改めて思いました。

ということで、協議事項の(1)少人数学級の実現について、貴重な意見をいろいろお伺いすることができたと思うんですが、これにつきまして皆さんからもうよろしいでしょうか。

それでは次、(2)教育環境の充実について。こちらの事項に移りたいと思います。

では、安形委員から説明をよろしくお願いたします。

#### ○委員

では、よろしくお願いたします。

先ほど、教育長から教育予算のつけ方で少し遠慮気味な発言がありましたけれども、私は少人数学級につきましては感謝しておりますが、教育予算につきましては全く逆で、さらに充実させなければ新城教育はもたないという視点で話をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

2月の総合教育会議で提案しましたが、非常に重要な案件ですので改めて提案させていただきます。

資料の一般会計における教育費割合の変遷、他市との比較をご覧ください。このデータは、各市のホームページに公表されている数字を基にしたものです。割合が書かれている市もありましたし、計算して教育費を割り出した市もありますので、そのつもりで見ていただけたらと思います。

一番下のグラフのところですが、橙色のグラフが新城市です。作手小学校の建設があった平成28年度以降は、ずっと低い割合で推移しています。高い市に比べて2分の1程度の教育費の割合です。新城市はなぜ、ここまで教育費の割合が低いのでしょうか。愛知県の教育費は、全体で17.8%の割合です。人口が同規模に近い高浜市とちょっと比較してみます。高浜市の面積は新城市の4分の1程度で、人口は元々新城市より少なかったのですが、平成30年度に逆転されまして、現在も人口が増加している市です。児童生徒数も新城より下の表のように、若干多いのですが、学校数は小学校が5校、中学校が2校のわずか7校です。新城市は、19校で12校も多くなっているのです。どんな小さな学校でも運営費はそれなりにかかるわけですので、12校も多い新城市の教育費の低さというのは、これはどう理解したらいいのかなと思います。この教育費の低さが恵まれない教育環境の原因になっていると思われれます。

次のもう1枚の資料、今年度の学校配当予算の比較をご覧ください。上の表の新城市A小学校は、25学級ということですからすぐ分かると思いますが、千郷小学校です。B小学校が東郷西小学校で15学級。他の市と大体同じ学級数のところを抽出して比較できるようにしています。グラフ化した青の棒グラフは、学校配当予算のうち修繕費と工事費を除いた額です。オレンジ色は消耗品費で印刷費やプリンター、紙代等で運営上必要なものばかりです。B小学校の東郷西小学校の配当予算ですが、同じ15学級の豊橋市のC小学校よりも130万円配当が少なく、10学級の田原市のE小学校よりもやはり100万円少なくなっています。学級数が少なくても田原市の方が多くなっているわけです。

配当予算がこれだけ少ないと、学校はあらゆる我慢を強いられます。学校配当予算には、燃料費、コピー機のリース代など、準義務的経費が含まれています。それらを除いた予算額を各学校で決定をするそうです。そうすると、消耗品費、修繕費、備品購入費などは学校がそれぞれ配分して、予算を決めるということになるわけです。

資料はつけてありませんが、千郷小学校の実態を聞いてきましたので、ありのままを発表させていただきます。

困っている点、3点ありました。消耗品費は、必要最低限のものだけを購入しているそうです。例えば、輪転機のインクマスター、プリンターのインク、トナーなどです。教師の連絡は、すべてタブレットで紙の印刷はしない、学級通信もメール配信にして紙代を節約しているそうです。それでも消耗品費が足りないので、保護者から1か月当たり50円、年間600円、560人で計算すると約33万円余りを紙代として集金をしています。修繕費につきましては、消耗品費にできるだけ予算を回したいので、本年度は備品に5万円、施設分を5万円の計10万円計上したそうです。そうしましたら、給食費の水道の漏水修理があつて、8月の時点ですでに全額使い切ってしまったそうです。この後どうするのかと聞きますと、教育委員会に相談しますとのことでした。ほかにも修繕が必要などところが数多くありますが、何ともならないとのこと、教室のカーテンはボロボロ、遊具の修理もできないというのが実態だそうです。修繕費が5万円しかなくては当然です。それから、備品の購入費ですが指導用に必要なものは数多くあるが予算がない。優先順位をつけて購入しているそうですが、本年度は掛け算カードと割り算カードの購入で予算が終了するそうです。現職研修の予算だとか、PTA予算からも印刷関係の消耗品の負担もしてもらっているということです。

先生方については、本来学校で用意すべきインク、ボールペン等の消耗品をはじめ、授業に必要な消耗品も自己負担で購入されているそうです。タイマー、マグネットをはじめ、飼育用品、教室の花、学級文庫の図書、子どもたちに見せたい教科書に関連した図書なども教師が善意で負担しているようです。指導に必要なものは、すぐに使いたいものが多いので、事務を通していたのでは間に合わないし予算もないことですので、ポケットマネーで購入しているのが実態だということです。

これが市内の多くの学校が置かれている現状ですので、教育の機会均等を保障するためにも学校への十分は配当予算確保が必要ではないかと思われまます。そのためには、教育費の割合を高めていただく必要があると思います。教育委員会全体に配当される予算が増額されなければ、教育委員会内で調整されることになり、他の予算をけずることになりますよね。ですから、教育委員会全体に配分される配当予算を増やしていただくことが必要です。それをやってこなかったこと、それが何年も繰り返されてきたことで今の実態となり、今回のような提案に至ったわけです。

私が申し上げたいことは、教育環境を充実させるために、他市に劣らないようにするために、毎年

一般会計の10%以上は教育予算として確保していただきたい、それを基本にしていただけないかということですが。

それから、教育長の予算や事務の決裁権がない状態についてですが、前回にも要望しましたがけれども、早く成文化していただくということを併せて要望したいと思います。

以上、学校現場の窮状をご理解いただきたく提案をさせていただきました。

よろしく願いいたします。

#### ○職務代理者

ありがとうございました。

ほかにはよろしかったでしょうか。

#### ○委員

この予算に関してですけれども、特に現場の先生方のお話を聞いていると、中学校の教員の皆さんよりも小学校の先生方がポケットマネーを使って、子どもたちのために何かを買ったりだとかしている割合が多いという話を先生方から実際に伺いました。特に年齢が若ければ若い先生ほどその金額というのが、月に費やしている金額というのが多いという話も実際には聞いております。大きなものから小さなものまであるんですが、特に使われているものとしては、例えば連絡帳ですとか、何か漢字の書き取りノートに貼って上げるためのシールですとか、子どもたちがそういうのを貼るとやる気が出るからということで善意でポケットマネーを使われているという若い小学校の先生というのがすごくたくさんいらっしゃるというお話を現場の声として聞いております。

あとこれは、子どもたちの声ですけど、全体のこの市の教育に回す費用ということに関してですが、私もちょっと耳が痛かったんですけども、今新城の子どもたちは、小学生はそんなこと言わないですけども、中高生がよく口にしてることなんですけれども、新城はおじいちゃん、おばあちゃんが多いから、若い人に回ってくる市のお金が少ないから僕たちはこんなぼろい設備で勉強しているんだよねと、ずっとここ何年か言っているのを聞いていたので、そんなことないと思うよとなだめながら、そうなんだろうなというところも少し思いつつ、特に高齢の方に対しての、我が家も高齢者がいますので、すごく手厚いなというのを思っていたんですけど、その分子どもたちに回す費用、学校に回す費用というのをもう少し増やしていただくと子どもたちも新城から出て行かないんじゃないかなもう少し、と思います。今、次男が高校3年生なんですけど、周りにいる就職組の子たちは皆さん、新城からこれで出て行くということで、豊田に行ってしまうたりだとか、名古屋に行ってしまうたりだとか、非常に暮らしづらいということで、就職で外に出てしまうという非常にさみしいことになっているので、そのためには、これは他市の市長さんの話で申し訳ないですが、豊橋の浅井市長がまちづくりは人づくり、人づくりはまちをつくり上げていく子どもたちからまずつくることだということを3日前におっしゃっていたので、確かにそれはそうだなということで今、将来の新城を担っていく小中学生のためにももう少し、教育を充実させるために費用を使っただけだとありがたいと思います。

以上です。

#### ○職務代理者

ありがとうございました。

ただいまは、教育環境の充実を図るためには、とにかく学校配当予算をもう少しつけてほしいという切実な意見が安形委員と原田委員からありましたけれども、それにつきまして市長から、なぜ教育

予算の割合が低いのかという、安形委員の質問がありましたけれども、それを踏まえましてご意見をちょっとお伺いしたいと思うのですが、お願いします。

○市長

一般会計における教育予算の割合ということで、表とグラフにさせていただきまして、示していただきました。新城市の市の特徴としては、もう言うまでもないですけども、面積が広大であるということ、これは県内で豊田市の次に大きな、約 500 平方キロメートルという面積がありまして、面積がギュッとコンパクトシティという、例えば、東三河でいうと蒲郡市、そういう市と比べて大変行政効率率的には非常に悪いという言い方はよくないですが、大変厳しいものがあるんです。そんな中での行財政運営になるわけですけども、特に市が一般会計全体の中のもの、構造がそれぞれいろいろと議会費、民生費、衛生費、それから商工費、農林水産業費、土木費、教育費、それぞれ 12 款項目があるんですけども、その中で高齢化が進んでいるというこの市の特徴から、扶助費いわゆる福祉費が割合がやはり大きいです。これは、人口構造から上げていただいた他市と人口構成が違うものですから、年代構成が違うものですからそういう特徴がありますし、一概に全予算の中の何パーセントという教育費が、そのパーセントのみをもって教育費が少ないと言えるものではないかもしれません、と私は思っています。

それで、安形委員からご指摘がありました点、例えば高浜市の場合は 7 校ですね。新城市が 19 校、これは小中学校合わせるんですけども、学校数が多い新城市がやはり教育予算の割合が少ないと。これは生徒一人当たりの教育費、この教育予算が高浜市とどう違うのかという、こういう分析もご指摘を受けたので、ちょっと財政課に頼んでデータとして調べてみたいと思います。そういう視点でもちょっと見てみなければいけないかもしれませんので、そのようにしたいなと思いました。

これは、今年の 2 月の総合教育会議のときにも安形委員からご指摘いただいたことでありますので、今後に向けての本市の教育行政、教育予算についての課題であるというように受け止めております。その中で、優先順位を決めて、できることから改善していきたいという、こんな考えでおりますので、ご理解をいただきたいと思っております。そのためにも原田委員から言われたように、中学校、高校卒業した子たちが定着してくれるようなまちになっていかないと、なかなか財政的に市の厳しい状況というのは改善していかないものですから、まちづくり全体を考えて様々な政策を打っていく必要があると思っておりますし、これまでも総合計画に基づく施策、それからまち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく事業というのは、若年層の流出をできる限り食い止めるための施策、それから高齢者が増えていく、高齢者福祉を充実していく、そして教育の支援をしっかりとやっていくという、そういう政策を打ってきたはずなんです。で、この状況にとどめているというのも、これが事実だと思うんです。それ以上に現実が厳しいというのが、この市の置かれた状況であるというように思っております。そんな状況もご理解をいただきながら、そうは言いましても教育委員の皆さんのご指摘を踏まえて、全体の予算の中で考えていく必要があると思っておりますので、今日いただきました資料については、しっかりともう一回精査をさせていただきますし、貴重なご指摘をいただけたものと思っております。

その中で一つだけ、こちらの新城市 A 小学校、新城市 B 小学校、資料の中の新城市 A 小学校、これは千郷小学校ですよ、今、全校で 25 学級あるんですか。

○教育長

特別支援学級を含めて。

○市長

特別支援学級を含めて、東郷西もそうですね。

○教育長

東郷西もそうですね。

○市長

はい、わかりました。

もう少しクラスが少ないかと思っていたので、ちょっと認識が。

○教育長

私が覚えている限りだと、多分3×6、18で普通学級。

○学校教育課長

そうですね。千郷小学校は特別支援学級7クラス

○教育長

7クラスあるね。

いろいろな障害の種類もあるということで、今7学級。ちなみに新城小学校は8学級。

○学校教育課長

新城小学校は、今度7学級。

○教育長

7学級になった。

両方とも7学級になります。

○職務代理者

市長から大変貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。教育長、最後にまとめで。

○教育長

一つ、学校予算に関わるところで施設の問題で、最後のページに中学校特別教室空調整備状況という一覧表を示させていただきました。市内の小中学校において、普通教室は全て空調完備しております。そのおかげで子どもたち本当に過ごしやすい環境の中で一年中学ぶことができています。

中学校が特に顕著なんですけれども、どうしてもここに書いてある空調がない部屋の使用を6月あたり、あるいは9月上旬ぐらいまでは暑い中で使わなければいけないということで、美術室、技術室、家庭調理室のどちらか、そこに空調を設置して子どもたちが学べる環境が必要だと思っております。

これは言いにくい話なんですけど、今年度暑い時期が少し早くて、6月下旬ぐらい例えば、瀬戸市の西陵小学校、10人のお子さんが熱中症のため、救急搬送された。それに近いことがこの中学校で起きてまして、聞いた話だと美術の授業で軽度な熱中症の症状が出て、保健室で子どもが静養したと、そういうことがあったそうです。3人の子もだそうです。それもすぐ当該校の校長から連絡を受けて、何としてもそれは子どもの命をお預かりする学校という場であってはならないことだからということで、伝えさせてもらいました。できるだけ早期に対応をさせてもらおうと。それまでは、なるべく1、2時間目にそういう授業を行う。あるいはずらして6月半ばぐらいまでに実習できるような形にするとか、9月下旬以降に実習できるような形にすることが非常に難しい。どの時期も全ての教科を学んでいかないと、子どもたちの履修がうまくできないということで、この3つの教室における空調をお願いしたいということが1点です。

もう1点は、現在、普通教室あるいはこちらの理科室等に空調を設置していただいたんですけど、メンテナンスが全く業者が入っていないということで、教員で掃除が可能かということ、なかなか難しく、この天井ほどではないですけれども、高い位置にあるので危ないということ、あるいは、中まできちんと清掃するということが家庭のエアコンでもなかなか難しい、それがある程度の大きさのあるエアコンになるとさらに難しいということで、設置したときにきちんと整備すべきだったのですが、まだそれが行われていないということで、普通教室含めて空調の掃除、メンテナンスを業者にきちんとやっていただくようなシステムをこれから導入したいというように考えております。

よろしく申し上げます。以上です。

○職務代理者

わかりました。ありがとうございます。

皆さんの中で、何かご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

○市長

一つ確認したいんですけど、美術室、技術室、家庭室どちらかって言われたのは。

○教育長

家庭科室か調理室、履修の関係で。家庭科授業を実施する部屋ということで、工夫によっては6月半ばから7月、あるいは9月上旬までは調理をやるよと言われれば、調理室のみの設置で対応ができそう。それは多分細かいことは学校に聞かないといけないですけども。

○市長

ありがとうございました。

○職務代理者

教育環境の充実につきましては、切実な要望等がたくさん出ましたけれども、市長には前向きにご検討願いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、協議事項（1）、（2）はこれでひとまずといたしまして、その他についてですけども、何かございましたらお願いします。

特になければこれで閉会となりますけどよろしいですか。

それでは、これもちまして令和4年第1回新城市総合教育会議を終了とさせていただきますと思います。貴重なお時間をどうもありがとうございました。

閉会 午後2時39分